

ハート to ハート 外国人同士が交流

昨年 12 月 18 日、田村市国際交流協会主催の在住外国人との交流パーティー「2016 ハート to ハート in 田村」が、「世界をもっと知ろう～今年はアメリカ！」をテーマに、船引公民館で盛大に開催されました。

パーティーには約 100 人が参加し、クリスマスケーキなどを食べながら、歌やダンスを楽しみ、参加者同士の交流を深めました。



下里幸せのつどい 健康長寿のための食事を学ぶ

昨年 12 月 18 日、下里幸せのつどいの第 5 回学習会と閉講式が船引総合福祉センターで行われ、下里老人クラブ会員 25 人が参加しました。

学習会では、市保健課の栄養技師が「おいしく食べて健康長寿」と題して講話を行いました。受講者は、食品サンプルなどを使った分かりやすい話を熱心に聴き、とても有意義な学習会となりました。



滝根 生涯学習セミナー お正月に向けて小物作り



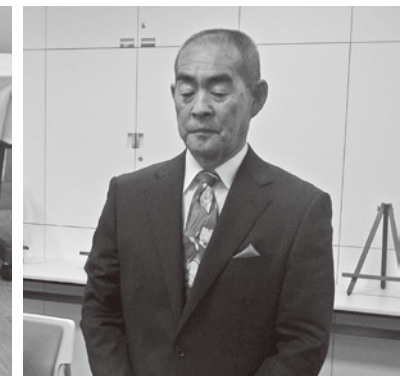
昨年 12 月 22 日、生涯学習セミナー「お正月用小物作り教室」が滝根公民館で開催され、10 人が参加しました。

船引町の塚原愛子さんの指導を受け、和紙を使って、手作りのはし入れとお年玉袋を作りました。参加者は和紙の折り方に苦戦しながらも、慣れてくると自分なりにアレンジをして楽しんでいました。最後に、新聞紙 1 枚で作れるゴミ袋の折り方を習いました。参加者は、お正月を楽しみに、小物を持ち帰りました。

百歳賀寿 末永くお元気で

次の方々が満百歳を迎えられ、福島県、市、田村市社会福祉協議会などから賀寿やお祝いなどが贈られました。おめでとうございます！

- 渡邊タツヨさん（船引町船引、写真左）
誕生日…12 月 28 日 長寿の秘訣…前向きに生活していたこと。
- 鹿俣ヒテ子さん（常葉町常葉、写真中）
誕生日…1 月 1 日 長寿の秘訣…好き嫌いなく何でも食べていたこと。
- 佐藤よしみさん（船引町船引、写真右：長男の忠一郎さんが代理受領）
誕生日…1 月 11 日 長寿の秘訣…好き嫌いなく何でも食べていたこと。

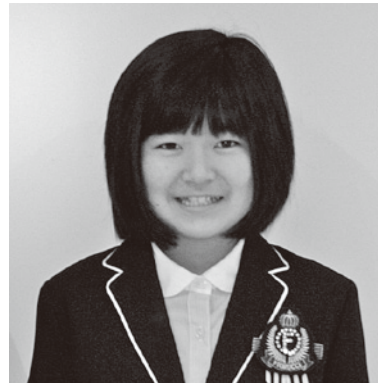


社会を明るくする運動作文コンテスト

船引小の松本さんが全国 2 位

法務省主催の「第 66 回社会を明るくする運動～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～作文コンテスト」で、船引小学校 6 年の松本真奈さんが、全国 2 位に相当する全国連合小学校長会長賞を受賞しました。昨年 12 月 27 日に船引小学校で、福島保護観察所長から賞状の伝達が行われ、松本さんは賞状などを受け取りました。同日、松本さんは市役所を訪れ、市長と教育長に受賞を報告しました。

受賞した作文を掲載します。



▲受賞した松本さん

言葉の力

田村市立船引小学校 六年 松本真奈

テレビのニュースや新聞で毎日のように、いたましい事件や事故のことが報道されている。最近では、何人もの命が一瞬で無くなってしまふような事件について聞くことが多くなったような気がする。

どうしてそういう事件が、この世の中から無くならないのだろう。どうして人の命を簡単にうばふようなことをする人がいるのだろう。わたしの周りでは、そういうことは無いのに…。最近、そういうことを考えることが多い。

わたしの周りで、人を傷つけたり、命をうばったりするような事件は起こらない。でも、絶対に起こらないと、本当にそう言い切れるだろうか。

わたしたちの身の回りにも、人を傷つけ、命をうばってしまうものがたくさんある。包丁やナイフ、薬、車…。考えただけで、数えきれない。でも、それらを使って人を傷つけたり、命をうばったりするような事件は、私の身の回りでは起きていないと思う。しかし、もっと簡単に人を傷つけ、命をうばってしまうかもしれない、とても身近で、日常生活でたくさん使っているものがある。それは「言葉」だ。

前に、わたしのクラスで、時々聞く言葉があった。「じゃま。」「うざい。」「近寄ってこないで。」その言葉が聞こえてくるだけでいやな気になる。言われた人はどんな気持ちなのだろうか。言っている人は、自分が言われた時、どんな気持ちになるか想像して言っているのだろうか。いつもと変わらない表情で言っている人、笑いながら言っている人を見かける。たったこの言葉一つで、その人のことを傷つけてしまえば、それは「いじめ」になると思う。

「いじめ」が原因で、自殺してしまったニュースを何度も聞いたことがある。どんなひどいことをされどんな気持ちになって自殺してしまったのかわからないけど、もし、自分がいじめられたらどうなるか、想像してみる…。いやな言葉を言われ助けてくれる友達もなく、きっと学校に

行きたくなくなってしまふと思う。学校に行かなければいけないと思っても、友達にまたいやな言葉を言われるのがこわくて、ずっと学校に行けなくなってしまうかもしれない。不安とどうにもならない気持ちでいっぱいになってしまう。

わたしも、人の気持ちを考えずに言ってしまった言葉がある。それは、体育の授業の時だった。突然、転んでしまった友達がいいた。今にも、泣き出しそうになっていた時、「それぐらいで、泣いちゃうの。」と言ってしまった。その友達の痛みや気持ちも考えず、思わず言ってしまった。わたしの言葉で、さらに、心を傷つけてしまった。もっと気の利いた言葉があったのではないだろうか。その時の友達の気持ちを考えず、その人を傷つけてしまう言葉、「ちくちく言葉」逆に、言われた人も、心が温かくなる言葉「あったか言葉」わたしたちの学校では、今、あったか言葉を増やし、進んで使っていくことががんばっている。「だいじょうぶ?」「おしかったね。」「すごいね。」しょんぼりとした顔を笑顔にさせるような言葉。このような温かい言葉をみんなが使ってどんどん広げていけば、絶対に「いじめ」は起きないと思う。まずは、こういう言葉がたくさんあることに、いろいろな人に気づいてほしい。そして、みんなが「あったか言葉」を使い、広げていくことで、いろいろな人たちが気持ちよく過ごせるのではないだろうか。そうすれば、人を傷つけてしまうことも減り、人をいじめてしまうということも無くなっていくと思う。

スポーツ少年団で、卓球の練習をしている時、練習をしないで、遊んでいる下級生がいた。六年生として注意しなければいけないと思い、「何で練習しないで遊んでいるの。」と言おうとしたが、「あったか言葉」のことを思い出した。「一緒に練習やろう。」すると、その子は笑顔で練習を始めてくれました。たったこれだけのことで、人の気持ちや行動が変わるなんて。言葉には大きな力があると感じた。

自分が人に対して使っている言葉をもう一度ふりかえってほしい。「あったか言葉」をかけてもらったり、かけたりする喜びを感じてほしい。私たち一人一人が「あったか言葉」を使い、広げていくことで、いじめだけでなく、学校も町も、社会も変わっていくと思う。小さいことだけど、言葉の力が世の中を変えていくのではないだろうか。